



# 安全で安心な水を届けます

## 「蛇口をひねれば水が出る」 当たり前前の生活を守るために

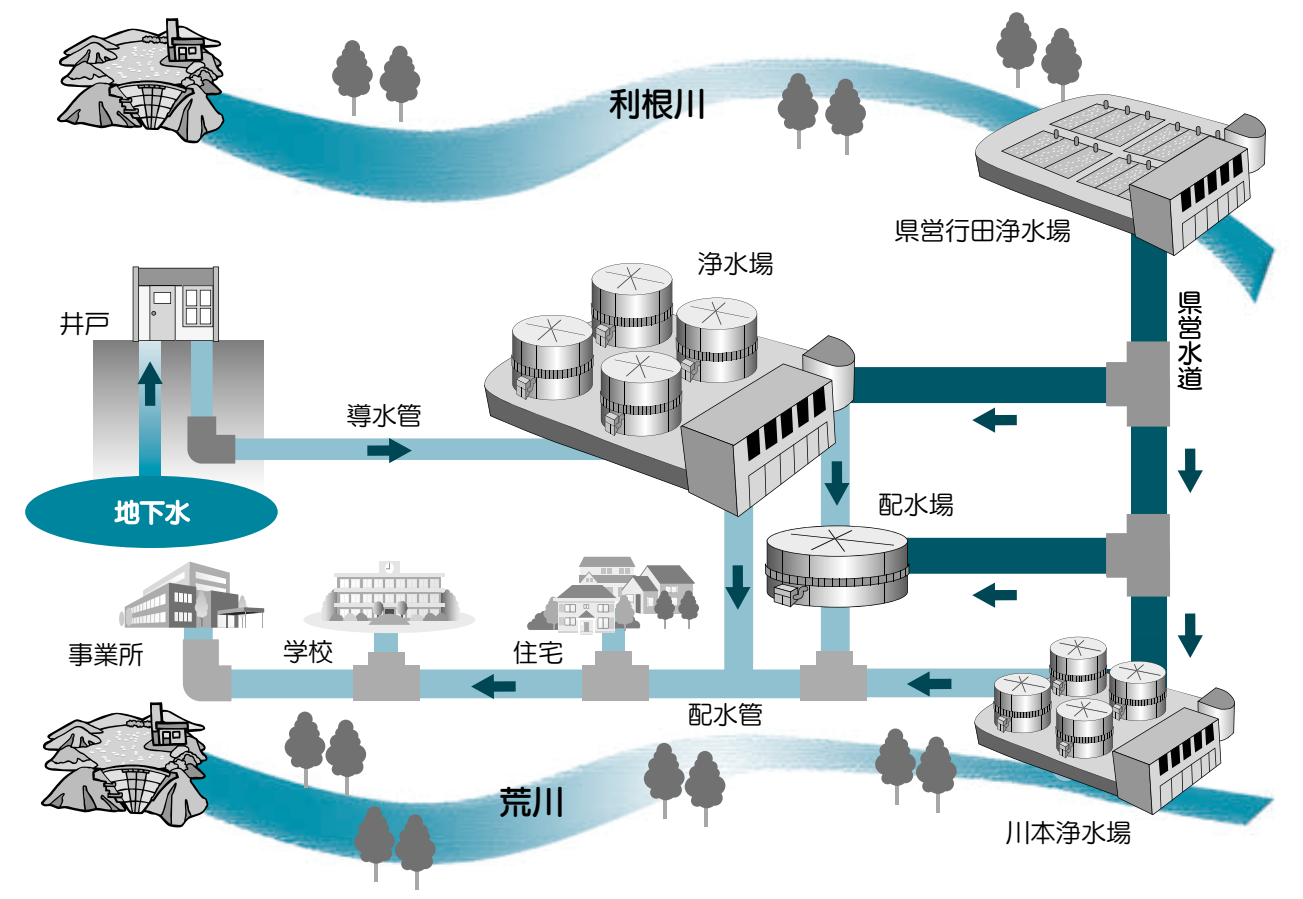
### ―― 災害に強い大事業を展開中 ――

市では、皆さんの生活や地域の経済活動を支える重要なライフラインとして、安全で安心な水の供給に努めています。

これまで、水道事業は普及・発展を目的としてきました。しかし、現在では水道施設の老朽化が進み、大規模な更新の時期を迎えています。

今後も安定した水を供給し、また、災害時のライフラインを確保するため、施設や管路の老朽化を改善し、水道施設の機能強化を進めていきます。今月号では、水道事業について特集します。

問い合わせ 水道工務課 (0574-6730)



▲水道水ができるまで  
市の水道は、地下水および荒川表流水を浄水処理した水と利根川表流水を浄水処理した水(県営水道)を利用しています。いずれも浄・配水場を通じて、安全で安心な水が皆さんのご家庭や学校、事業所などに送られています

## 水道よくある質問

**Q1** 安全といわれますが、どのように確認していますか？

**A1** くみ上げた地下水や河川水の原水に異常がないか水質の検査を行っています。また、浄水場でつくられた浄水のほか、浄水場から送り出された水も、市内各地区の蛇口をお借りして毎日検査を行い、異常がないことを確認しています。

**Q2** 浄水場ではどのような処理が行われますか？

**A2** 地下水は、次亜塩素酸ナトリウムによる滅菌や、溶解性マンガンなどを酸化させて、急速ろ過機で鉄やマンガンを取り除きます。  
河川水は、次亜塩素酸ナトリウムによる滅菌とポリ塩化アルミニウムを注入することで、細かい濁質を凝集沈殿させ、上水を急速ろ過機でろ過します。  
これらの処理水は配水池に貯水した後に、ご家庭や事業所などへ配水します。

**Q3** 家の近くの浄・配水場の水はどこから来るの？

- ・花園第1・第2配水場：県水100%
  - ・川本浄水場：県水90%・荒川表流水10%
  - ・新仙元山配水場：県水80%・地下水20%
  - ・岡部浄水場・今泉配水場：県水40%・地下水60%
  - ・血沼浄水場：県水20%・地下水80%
  - ・幡羅町・前川原・前小屋・普濟寺浄水場：地下水100%
- \*県水とは、県営水道(利根川表流水)のことです。

**Q4** 今年の夏は節水が必要ですか？

**A4** 皆さんが集中して水道を使用する朝夕の時間帯にも、十分に配水できるよう対応しています。しかし、節水することにより浄・配水場の節電につながります。  
日ごろから小まめに蛇口を閉める習慣を身に付け、限りある資源を大切に使うよう心掛けましょう。

## 水道の歴史

深谷地区の水道は、大正14年に井戸の建設、昭和3年には台坂浄水場や配水管布設工事が行われ、昭和4年7月、県内で2番目に給水が開始されました。また、岡部地区では昭和40年、川本地区では昭和46年、花園地区では昭和53年にそれぞれ給水が開始されました。その後、各地区とも拡張事業や県営水道の受水、市町合併などを経て、現在に至ります。

## 水源や施設

**水源** 水道の水源は市内23か所にある深井戸からの地下水が約65%、荒川の表流水によるものが約1%です。また、利根川の表流水を浄水処理した県営水道からの購入水は約34%となっています。

## 施設

浄水場では、井戸や河川からの水を滅菌し、ろ過装置を経て安全な水をつくっています。市内には7つの浄水場と、4つの配水場があり、毎口約53,000m(25mプール約130杯分)の水を皆さんのご家庭や事業所などに供給しています。

毎年約100件の漏水が道路下で発生しています。修繕の際には、通行止めや断水などで、市民の皆さんにご迷惑をお掛けしている状況です。  
特に他市に比べ深谷市は、耐震性に劣る石綿セメント管の布設距離が長く、平成12年度から老朽管更新工事を計画的に実施し、平成23年度末までに約111kmを更新しました。今後10年近くかけて約110kmの工事を行っています。

浄・配水場の統廃合

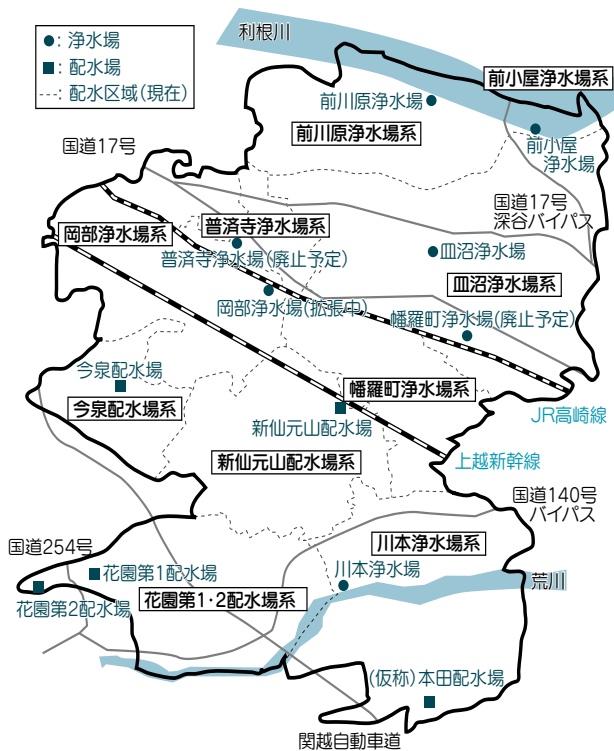
老朽化した水道管を更新します

深谷市水道事業基本計画

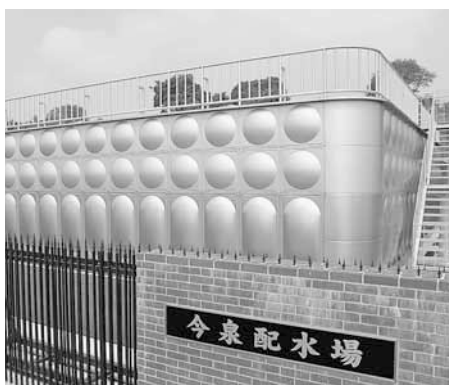
県内でも水道の供給が早かった深谷市では、市内の多くの施設や管路の老朽化が進んでいます。それを改善するため、平成21年3月に「深谷市水道事業基本計画（長期整備計画）」を策定しました。この計画に基づき、平成32年度までに浄・配水場の統廃合や老朽化した水道管を更新します。そのために合併特例債などを財源とし、約200億円を投じます。

この事業を実施することで、施設や設備が更新され、市民の皆さんに安全で安心な水の供給ができます。また、耐震性が高まることにより、大規模な地震への対応能力が向上します。

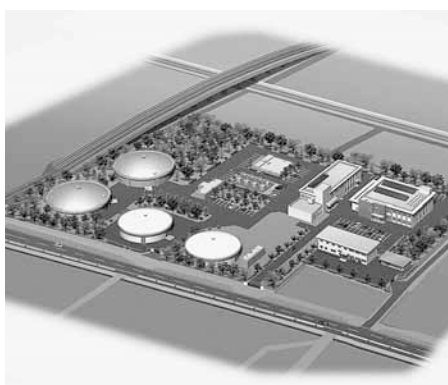
深谷市水道施設の概要図



▲⑥岡部浄水場のさく井工事：井戸の掘削工事では深さが約200mに達します



▲②今泉配水場：ステンレス配水池1,200m<sup>3</sup>



▲①岡部浄水場拡張の完成予想図(平成26年度末完成予定)



▲⑦基幹配水管整備(コスモス街道・岡部地区)



▲⑥血沼浄水場の配水池に設置された緊急遮断弁(写真右下)

①施設の統廃合  
岡部浄水場の拡張

49億3千万円

老朽化が進んだ幡羅町浄水場と普濟寺浄水場を廃止し、岡部浄水場を拡張します。

これにより、岡部浄水場は市内水道施設の集中監視拠点となります。

浄水能力は1日当たり7,900m<sup>3</sup>から33,300m<sup>3</sup>に拡張します。

②今泉配水場の更新

6億円

老朽化が進んだ今泉配水場は、平成23年度に移転しました。

また、1日当たり2,342m<sup>3</sup>の配水能力を持つ施設に更新されました。

③(仮称)本田配水場の建設

8億3千万円

荒川南側の本田地区に新たな配水場を建設し、災害時などの応急給水や、春日丘工業団地への水の需要増加に対応します。

④川本浄水場の改修

6億2千万円

設備の老朽化に伴う改修や、より安全な水を供給するため、膜処理施設を設けます。

⑤新たな水源の確保

16億9千万円

血沼・前川原浄水場で、揚水量が低下している井戸もあるため、既存の深井戸を改修します。

岡部浄水場の新たな地下水源として、深井戸10井を整備します。

⑥地震時の水道水の確保

3億3千万円

地震対策として各浄・配水場の配水池に緊急遮断弁を設置し、大規模地震時の応急給水・復旧用の水を確保します。



▶災害時や緊急な断水に備え、給水車(加圧式)を導入しました

⑦基幹配水管の整備など

33億4千万円

岡部浄水場・幡羅町浄水場系地域への基幹配水管の整備を行います。また、新たな井戸・岡部浄水場までの導水管の整備を行います。

⑧連絡管・送水管の整備

5億7千万円

浄・配水場間の連絡管・送水管の整備により緊急時に送水の応援が可能になります。

平成21年～32年の12年間で、毎年約6億円をかけて老朽管の更新を行います。重点的に石綿セメント管を耐震性のあるダクタイル鉄鉄管に更新していきます。

⑨老朽管更新工事

70億円

緊急時の相互応援活動の推進

5月18日に利根川を水源とする県営行田浄水場で、基準値を超えるホルムアルデヒドが検出される水管事故が発生し、行田浄水場からの送水が一時停止されましたが、幸いにも市内での断水には至りませんでした。

市では徹夜で応急給水活動の準備を進める中で、隣接する群馬県伊勢崎市や太田市からも給水車の貸し出しの了解が得られました。今後も近隣市町との相互応援活動を推進し、安定した水の供給に努めていきます。